

実習前OSCEが臨地実習 —実習中間期の学生

茨城県立医療大学

浅川 和美

市村久美子

に及ぼす影響 アンケート調査からー

保健医療学部 看護学科

小室 佳文 堀内 ふき

研究目的

領域別実習前に実施した、看護学科全教員の参加による、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination、以下OSCE）が、学生にとって、どのような意義があったのかを検討し、実習前OSCEの有効性と今後の課題を明らかにする。

研究方法

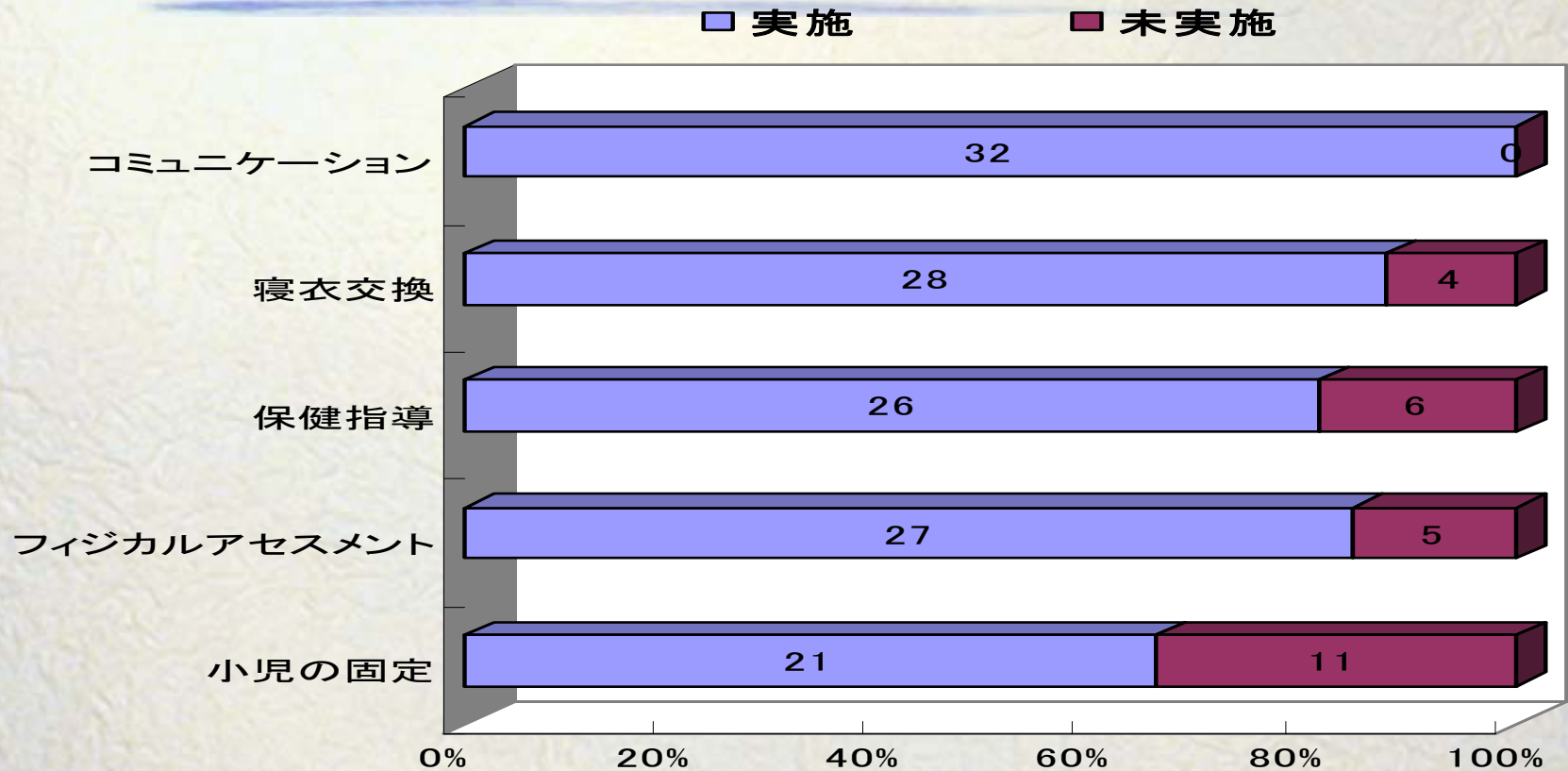
- 調査方法：無記名記述式のアンケート調査
- 調査対象：OSCE実施後の4ヶ月間に、慢性・
終末期看護実習、急性期看護実習、精神看護
実習、周産期看護実習を終了した3年次生52名
- 実施時期：平成18年2月
- 調査内容：臨地実習におけるOSCE実施項目の経験の有無、臨地実習経験場面でのOSCEの影響、
等

実習前に行ったOSCE

1. 小児の固定と抑制
2. 患者との基本的コミュニケーション
3. 胸部のフィジカルアセスメント
4. 基本健康診査後の保健指導
5. 臥床患者の寝衣交換

結 果

アンケート回収は32名、回収率（61.5%）であった



臨地実習でのOSCE課題の実施有無

* 小児科は約 1 / 3 の学生が未経験 * 地域実習は全員が未習

OSCEに関する意見

1. 技術練習のきっかけになった

- OSCEに向けて勉強したことは、実習に役に立ったと思う。特に実習前、自分で勉強する気になかなかなれないが、OSCEがあることで、勉強するきっかけができたので、その点でよかった。
- 時間制限など、OSCE自体には疑問が残るが、OSCE対策として実技の練習などをするようになるため、結果的にスキルアップに繋がっていると思う。
- 実習に向けて勉強しようとしても範囲が広すぎて、どこから手をつけていいか分からなかったが、OSCEが学習のきっかけになった。

2. 自分の技術の確認ができた

- 技術の確認になり、とても良かった。
- 先生からフィードバックを受けることができたことから、臨地実習で私が注意することや、気をつける点を知ることができ、よい点を意識して活用できました。

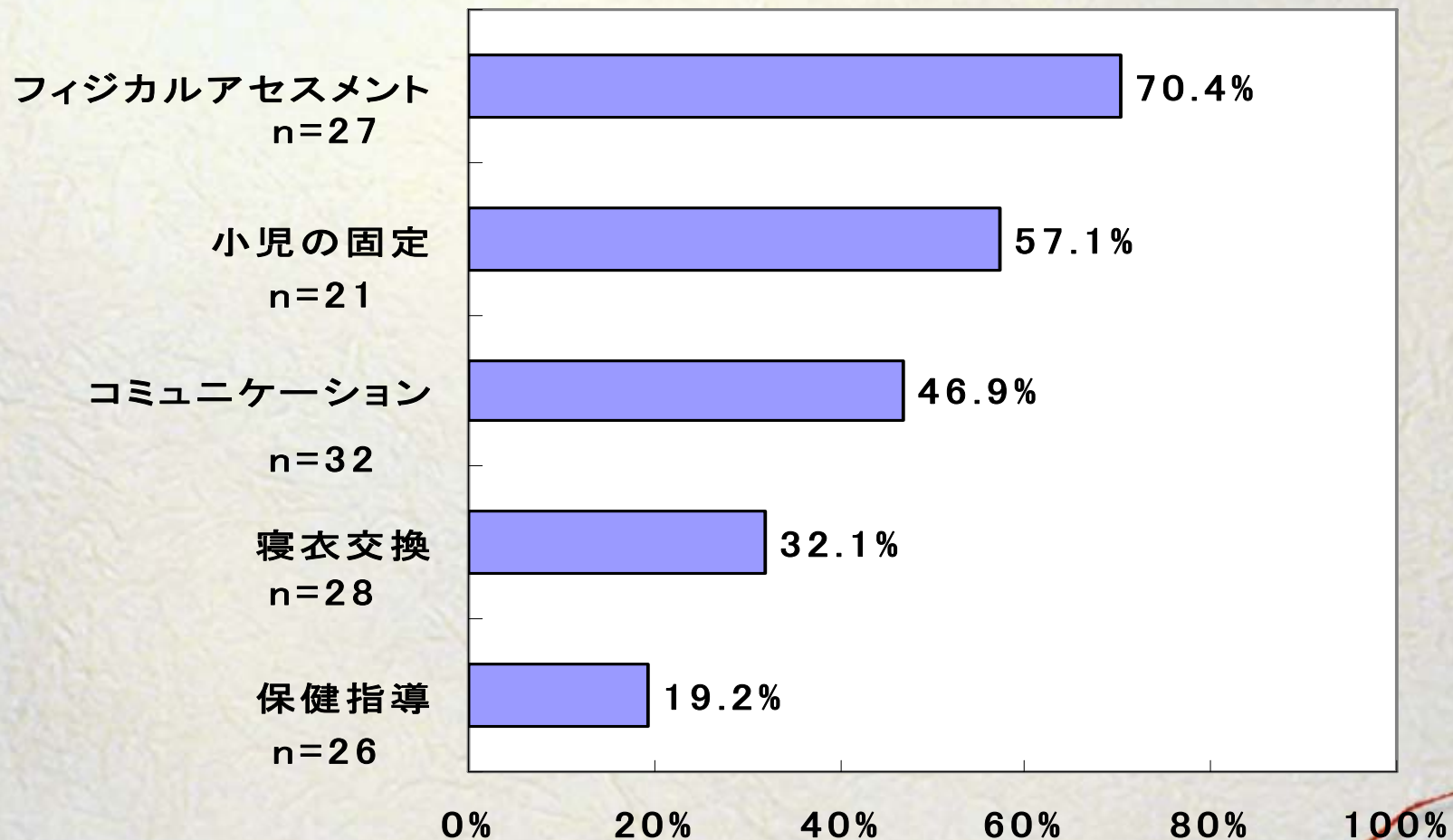
3. 実習への不安を軽減した。

- 先生に自分の技術をフィードバックしていただいたことで、実習に対しての不安を軽減することができた。

4. 練習したことが実習で役だった。

- OSCE自体より、そのために練習したこと(10項目)が多く実習にでてきたので、練習が役に立った。

臨地実習でOSCE課題と同項目を実施した時に 「OSCEが役に立った」と答えた人の割合



* nは臨地実習で経験した学生の人数

課題の分析

I 「胸部のフィジカルアセスメント」

1. 臨地実習で実施した時にOSCEが役に立った、と答えた人は27名中19名（70.4%）であった。
2. 学生の自由記述内容（抜粋）
 - ・ O S C E の為 にたくさん聞く練習をしたことで、自分への自信にもつながり、自信を持って看護師に報告できた。
 - ・ 急性期の実習で呼吸音の聴診を行ったので、OSCEで学んだ手順が生かした。
 - ・ 呼吸音聴診の手順ができた。

課題の分析

「臥床患者の寝衣交換」

1. 臨地実習で実施した時にOSCEが役に立った、と答えた人は28名中11名（39.3%）であった

2. 課題内容（抜粋）

寝衣交換をしています。左側臥位にして、新しい寝衣を右袖から着せ、仰臥位に戻したところです。寝衣交換を続けて行ってください。

「寝衣交換」

学生の自由記述内容（抜粋）

- 受け持たせていただいた患者はみな前開きのパジャマやかぶりものであったため、OSCEで行ったような和式寝巻きを着ている方はいなかった。しかし、寝衣交換の基本はOSCEで学んでいたので衣服の種類が異なっても応用として実施することが出来た。
- 急性期実習で、ルート類があると寝衣交換時とまどってしまったので、点滴をしている患者さんを想定して練習しておけばよかったと思った。

課題の分析

「基本健康診査後の保健指導」

1. 臨地実習で実施した時にOSCEが役に立った、と答えた人は26名中5名(19.2%)であった

2. 課題内容（抜粋）

・ ・ ・ は、先日受けた町の基本健康診査結果をもらいに保健センターに来ました。

今回と前回の健診結果は、別紙のとおりです。これから結果説明と保健指導を行ってください。

「基本健康診査後の保健指導」 評価項目

面接技術

1. わかりやすい説明

保健指導

1. 健診結果全体を提示し、本人が結果をどのように受け止めているか確認した
2. 正常範囲内の結果を説明し、よいところを認めた
3. 前回の血液検査データと比較し、体重増加を確認した
4. 前回の血液検査データと比較し、中性脂肪と総コレステロールの悪化傾向を確認した
5. 今回の血液検査データから、異常値を確認した
6. 食事時間・回数を確認した
7. 食事内容を確認した
8. 運動状況を確認した
9. 食事・運動状況以外（生活リズム、ストレス、嗜好品（酒・タバコ）等について確認した
10. 相手の反応を見ながら共に考える姿勢を示した

考 察

1. OSCEで実施した5項目はすべて、臨地実習での実践の割合が6割以上であった。
2. 実習前にOSCEを行ったことによるメリットは以下の4点であった。
 - 1) 実習前の技術練習のきっかけになった
 - 2) 自信を持てた、自分の課題が明確になった、など、自分の技術の確認ができた。
 - 3) 実習への不安を軽減した。
 - 4) OSCEで実施した項目だけでなく練習した項目は実習で役に立った。

3. 70%以上の学生が、胸部のフォジカルアセスメントは臨地実習場面で役に立った、と答えた。その要因として以下の2点が考えられた。

- 1) 健康な人やモデル人形によって繰り返して練習することが可能であった。
- 2) 手順にそって練習することにより、技術に自信を持つことができた。

4. 臨地で実施した際OSCEが役に立ったと答えた人が40%以下の課題は、「寝衣交換」と「保健指導」であった。

1) 「寝衣交換」は、課題の設定内容が臨地の状況に沿っていなかったことから、課題設定の吟味の必要性が示された。

2) 「保健指導」は、指導における技術ポイントの明確化が必要であることが示唆された。